

世界 LNG 動向#114 2025 年 6 月

橋本裕*

はじめに

カナダ、太平洋市場への LNG 輸出を開始。 LNG Canada は 6 月末、LNG カーゴ初出荷を発表した。

日本が最大の LNG 輸入国となる。 日本は、2025 年 1-5 月、2771 万トンの LNG を輸入し、前年同期比 0.5% 減少となった。中国の同じ 5 ヶ月間での LNG 輸入は、前年同期比 23.2% 減少して 2486 万トンであった。

メタン排出管理に向けた新たな国際協力が形成される。 経済産業省 (METI)、独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構 (JOGMEC) は、国際エネルギー機関 (IEA)、国連環境計画国際メタン排出観測機関 (UNEP IMEO)、国際液化天然ガス輸入者協会 (GIIGNL)、Environmental Defense Fund (EDF)、メタン排出認証機関 MiQ とともに、LNG 供給チェーン排出削減加速への宣言を発表した。

長期契約での LNG 売買に合意成立。 6 月上旬、JERA は、米国 4 社 (5 プロジェクト) から合計年間 550 万トンの LNG 調達に関して、合意を発表した。日本企業による長期契約での LNG 調達量増加、供給源多様化、柔軟性向上に向けて前進となる。運転中プロジェクトからの調達分、新規プロジェクトでこれ以前に調達合意していた分の合計年間 450 万トンに上乗せとなる。また九州電力が 5 月末に上記 4 件と別の米国プロジェクトから年間 100 万トンの長期契約での調達を発表した。これらの長期売買コミットメントは、新規プロジェクトの投資決定の裏付けとして、開発に勢いを付けることとなる。

米国でさらに 1 件の LNG プロジェクト FID 発表。 Cheniere Energy 社は 6 月下旬、Corpus Christi ミッドスケールトレイン 8 & 9・デボトルネッキングプロジェクトについて FID (最終投資決定) を発表した。中規模系列 2 本容量 LNG 年間 300 万トン・その他インフラストラクチャーデボトルネッキングで構成される。同プロジェクト完成後、Corpus Christi LNG 設備は 2029 年までに総容量年間 3000 万トンに到達する見込み。

さらにもう 1 件の LNG プロジェクトの建設開始へ。 Venture Global 社は 6 月初旬、自社 3 件目の LNG 輸出設備となる CP2 LNG について、現場作業を開始したことを発表した。CP2 は先頃 FERC (連邦エネルギー規制委員会) から最終建設承認を受け、数週間前に DOE (米エネルギー省) から非 FTA 輸出承認を受けている。

アラスカ LNG プロジェクトに前進。 Glenfarne 社は 6 月初旬、第 1 次戦略的パートナー選定プロセスに 50 社以上が参加したと発表した。州内供給用のパイプライン区間の FID (最終投資決定) を 2025 年中に見込むとしている。

* 資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット

【アジア太平洋】

経済産業省 (METI)、独立行政法人 エネルギー・金属鉱物資源機構 (JOGMEC) は、国際エネルギー機関 (IEA)、国連環境計画国際メタン排出観測機関 (UNEP IMEO)、国際液化天然ガス輸入者協会 (GIIGNL)、 Environmental Defense Fund (EDF)、メタン排出認証機関 MiQ とともに、カナダ政府支援とともに、LNG 供給チェーン排出削減加速への宣言を発した。

株式会社 JERA は、2025 年 6 月 12 日、米国より新たに年間最大 550 万トンの LNG を調達することを決定したことを発表した。米国時間 6 月 11 日午後、米国エネルギー省において日米両政府高官の立ち会いの下、表明したとのこと。米国 NextDecade 社および Commonwealth LNG 社との間で LNG SPA(売買契約) を、Sempra Infrastructure 社および Cheniere Marketing 社との間で LNG 売買に関する HOA (基本合意) (法的拘束力なし) を締結したとしている。

株式会社 JERA・豪 Woodside Energy 社は、2025 年 6 月 23 日、冬季の LNG 安定確保に向けて、株式会社国際協力銀行 (JBIC) による融資を受けた豪 Scarborough ガス田を含む Woodside ポートフォリオからの LNG の売買に関する HOA (基本合意書 法的拘束力なし) を締結したことを発表した。2027 年度から 5 年間、冬季 (12 月から 2 月) において年間 3 カーゴ (約 20 万トン) の LNG を Woodside 社より購入することを目的とした協議を進める。

株式会社 JERA は、2025 年 6 月 17 日、マレーシア Petronas 社との間で、LNG バリューチェーン協業の強化に関する覚書を、同 16 日に締結したことを発表した。

JOGMEC と PETRONAS LNG Sdn. Bhd. (PLSB) は、2025 年 6 月 23 日、LNG 分野における協力の枠組みを拡大し、戦略的な LNG 取決めを通じて LNG の安定供給を強化することを目的とする MOC (協力覚書) を締結したことを発表した。

株式会社商船三井 (MOL) は、2025 年 6 月 4 日、韓国のサムスン重工業 (SHI) とともに、固体酸化物型燃料電池 (SOFC) を搭載した LNG 運搬船の設計に対してロイド船級協会 (LR) より、基本承認 (Approval in Principle: AiP) を共同取得したことを発表した。2027 年に竣工予定の貨物槽容積 174,000 m³ LNG 運搬船にて、通常の発電機に加え、ブルームエネルギー製の 300 kW の SOFC が搭載・運用される予定。

韓国の造船会社、現代三湖重工業 (Hyundai Saho Heavy Industries (HSHI)) は、2025 年 6 月 27 日、LNG 輸送船舶 4 隻新造・10.26 億米ドルの受注を発表した。「オセアニア本拠の船主」に、2028 年 8 月 16 日に引き渡す、と述べた。

韓国の造船会社ハンファオーシャンは、2025 年 6 月 18 日、あるオセアニア地域の船主が 2022 年 1 月 28 日に発注した LNG 輸送船舶 2 隻の引き渡しを延期する、と述べた。従来 2025 年 12 月 31 日引き渡し予定だったが、2026 年 3 月 31 日となる。

2025 年 1 - 5 月、中国は天然ガス消費量 1768.9 億 m³ と前年同期比 1.3%減、国内生産量は 1096 億 m³ と前年同期比 6.0%増となった。5 月だけでは、消費量が 364.2 億 m³、前年

同月比 2.4%増、国内生産量が 221 億 m³ と同 9.1%増となった。

香港 CLPe(中電源動集團) は、2025 年 6 月 10 日、CNOOC Guangdong Water Transport Clean Energy Company Limited(中海油廣東水運清潔能源有限公司) と協力して、6 月 5 日にドイツ海運 Hapag-Lloyd 社コンテナ船舶 Hanoi Express 向けに、Kwai Tsing(葵青貨櫃碼頭) コンテナ基地にて、荷役中に同時に LNG 燃料供給を行ったことを発表した。

フィリピン First Gen 社は、2025 年 6 月 2 日、Prime Infrastructure Capital 社との戦略パートナーシップを締結したことを発表した。Prime Infra は、1000 MW Santa Rita 発電設備、500 MW San Lorenzo 発電設備、450 MW San Gabriel 発電設備、97 MW Avion 発電設備、1200 MW Santa Maria 発電設備計画の発行済株式の 60%を持つこととなる。この取引には暫定沖合 LNG 基地も含まれる。Prime Infra はバタンガスにおけるガス火力発電設備の 60%を、First Gen は 40%を持つこととなる。他方 LNG 基地所有権は 60% Prime Infra、20% First Gen、20%東京ガスとなる。

ベトナム PetroVietnam 社は、2025 年 6 月 30 日、ベトナム LNG 火力発電設備最初の 2 基の内一方、Nhon Trạch 4 発電設備が、同 27 日に当初容量 50 MW にて国家送電網に接続したことを発表した。

シンガポール Singapore Cruise Centre Private Limited (SCCPL) 社は、2025 年 5 月 28 日、日本船籍最大の客船 ASUKA III が、FueLNG 社により最初の海洋燃料 LNG バンカリングを完了した、と述べた。

タイ Gulf Development Public 社 (70%)・PTT Tank Terminal 社 (30%) 間の合弁事業 Gulf MTP LNG Terminal 社 (GMTP) は、2025 年 6 月 24 日、GMTP 臨時株主総会が LNG 基地・気化設備開発推進を承認したことを、タイ証券取引所に通知した。2025 年第 4 四半期建設開始、2029 年第 1 四半期商業稼働開始を見込んでいる。同基地は同国第 3 件目の LNG 基地となる。主たる標的顧客として、LNG 荷主ライセンスを持つ Hin Kong Power Holding 社 (HKH)、Gulf LNG 社 (GLNG) が含まれる。Map Ta Phut プロジェクトは、用地埋め立て作業、同埋め立て地での LNG 基地・気化設備開発で構成される。GMTP は 2021 年 12 月埋め立て作業を開始、2025 年 3 月完了した。

インド GAIL(India) 社は、2025 年 6 月 6 日、Dabhol LNG 基地にて防波堤プロジェクト完成後、初の LNG 輸送船舶 GAIL Bhuwan を同月 2 日に着岸させ、揚荷役を行ったことを発表した。防波堤稼働開始で Dabhol LNG 基地は全天候型となり、同基地の中断ない通年操業が可能となり、南西部のモンスーン期間中の季節的中断を克服できることとなる。

インド Torrent Power 社は、2025 年 6 月 2 日、bp Singapore 社と、LNG 年間 41 万トン・2027 年から 2036 年の長期 SPA(売買契約) を締結したことを明らかにした。Torrent Power はインドにおける 2,730 MW 分のコンバインドサイクルガス火力発電設備に利用する。また同社グループ傘下の都市ガス事業 (CGD) Torrent Gas 社もこの LNG を活用する。

バングラデシュ財務省・科学技術省は、2025 年 6 月 2 日、国家予算説明の中で、LNG 輸入段階での VAT 適用除外が実施されたことを明らかにした。

豪州連邦政府は、2025 年 6 月 30 日、過去何代もの政権により導入され豪州エネルギー供給・価格安定を保ってきた主要な施策手段に関して包括的な見直しを行うべく、ガス市場諸規制の検証を開始したことを発表した。この検証は、2024 年に公表された、豪州のエネルギーの将来を安定的に確保するために、再生可能エネルギー、バッテリー、揚水水力発電とともにガスが果たすべき役割、および通商パートナーがネットゼロコミットメントへの取り組みを支援する役割を示した「将来ガス戦略」実現をも支援する。ACCC は最新版のガス市場調査を公表、長期的な投資の必要性を喚起している。

豪 Santos 社の 2025 年 6 月 11 日の情報によると、Moomba CCS は 2024 年 9 月稼働開始以降、800,000 トンの CO₂を貯蔵したとのこと。サウスオーストラリア州 Cooper 盆地の Moomba CCS 第 1 段階は、最大年間 170 万トンを貯蔵できるように設計されている。同プロジェクトは枯渇した石油・ガス資源層を活用している。

豪 Santos 社は、2025 年 6 月 16 日、アブダビ ADNOC 社子会社 XRG 社主導・Abu Dhabi Development Holding Company (ADQ)・Carlyle を含むコンソーシアムから、非拘束の取引提案を 13 日に受領したことを発表した。この取引提案は、Santos 発行済み普通株式全株を買い取るものとしている。Santos 取締役会は、拘束力ある SIA(スキーム実施契約)にて受け入れることができる諸条件に合意に達することを条件として、Santos 株主に対して本取引に賛成することを、全会一致で推奨する意図である。Santos は、6 月 27 日、XRG と独占権証書 (Process Deed) を締結したことを発表した。XRG コンソーシアムは、6 週間の排他的なデューデリジェンスアクセスを受ける。

豪 Woodside は、2025 年 6 月 13 日、自社および North West Shelf 合弁事業は、豪連邦政府との話し合いを続けている、と述べた。North West Shelf プロジェクト延長環境承認プロセスの一環として政府が提案している諸条件についての折衝期間の延長に関して、関係者は合意している。

豪 Santos 社は、2025 年 6 月 18 日、BW Opal FPSO(浮体生産・貯蔵・積み出し設備) 船舶が、2025 年第 3 四半期ガス生産開始を目指すダーウィンの北 285 km の Barossa ガス田に到着したことを発表した。当該 FPSO は Santos の Barossa LNG プロジェクトの生産における中核設備である。Santos の合弁事業パートナーは SK E&S・JERA 社である。6 本生産井プログラム中、5 本は掘削され、5 本目はフロー試験準備中である。最終井は第 3 四半期に完成見込み。262 km ガス搬出パイプライン、123 km ダーウィンパイプライン複線化、およびガス生産開始に必要な海底インフラストラクチャーは完成している。

[北米]

DOE (米エネルギー省) は、2025 年 6 月 11 日、エネルギー長官、内務長官が JERA・米国 LNG 生産企業間の 20 年間の契約類発表に立ち会ったことを発表した。

米国の LNG 業界団体 Center for LNG (CLNG) は、2025 年 6 月 9 日、中国の海運・ロジスティックス・造船分野での支配的地域に関する第 301 条捜査附属 IV に関する一部修正に

ついて、米通商代表部 (USTR) の発表を歓迎する声明を発表した。USTR は 4 月、中国建造、中国運航による船舶への課徴金案を発表した。この提案には、全 LNG 輸出の 1%を 2029 年までには米国建造船舶で輸送すべきこと、この率を 2047 年までに 15%まで引き上げる条項が含まれていた。6 月 6 日の通知で、USTR はこの条項の除外を提案する、と述べた。

Sabine Pass Liquefaction 社が、2025 年 6 月 6 日、FERC(連邦エネルギー規制委員会) に提出した承認申請修正によると、Sabine Pass 5 拡張プロジェクトは、ConocoPhillips 液化技術を用い各最大年間 300 bcf 生産容量を持つ天然ガス液化系列 3 本、追加年間 50 bcf 加えるボイルオフガス (BOG) 再液化装置にて、合計年間 950 Bcf、1900 万トンを加えることとなる。SPLNG 設備合計の容量は年間 5204 万トンとなる。

Cheniere Energy 社は、米東部時間 2025 年 6 月 24 日 7:00 am、取締役会が Corpus Christi ミッドスケールトレイン 8 & 9・デボトルネッキングプロジェクト (CCL ミッドスケール 8 & 9) について FID (最終投資決定) を行い Bechtel Energy 社にフル推進通知を発行したことを発表した。CCL ミッドスケール 8 & 9 は、中規模系列 2 本で見込まれる容量は LNG 年間 300 万トン・その他インフラストラクチャーデボトルネッキングで構成される。CCL ミッドスケール 8 & 9 完成、見込まれるデボトルネッキング、CCL ステージ 3 を加え、Corpus Christi LNG 設備は 2029 年までに総容量年間 3000 万トンに到達する見込み。

Sempra Infrastructure 社は、2025 年 6 月 11 日、テキサス州ジェファーソン郡 Port Arthur LNG 第 2 段階開発プロジェクトから、FOB(本船渡し) 条件で LNG 年間 150 万トンの引き取りの 20 年間 SPA (売買契約) に向けた JERA との HOA (基本合意) を発表した。同プロジェクトは主要許可を全て確保済み、2 本の液化系列を有する見込み。米国と自由貿易協定を持たない諸国向けの米国産 LNG 輸出に関して 5 月に DOE (米エネルギー省) 承認を受けた。FERC(連邦エネルギー規制委員会) 承認を 2023 年 9 月に受けた。2024 年 6 月、Sempra Infrastructure・Aramco 子会社が、Port Arthur LNG 第 2 段階開発に関して長期 LNG 引き取り・出資参加に関する拘束力なし HOA を締結した。2024 年 7 月、Sempra Infrastructure は Bechtel が同プロジェクト固定価格の EPC (エンジニアリング・調達・建設) 契約に選定されたことを発表した。Port Arthur LNG 第 1 段階プロジェクトは建設中で、第 1、第 2 系列について、2027 年、2028 年にそれぞれコマーシャル稼働見込みとしている。

Freeport LNG Development 社、FLNG Liquefaction 4 社 (FLIQ4) は、2025 年 6 月 18 日、FERC (米連邦エネルギー規制委員会) に、第 4 系列プロジェクトの建設・稼働開始期限を 2031 年 12 月 1 日まで 40 ヶ月間の延長を申請した。2020 年 9 月 10 日、FERC は 2026 年 5 月 17 日までの延長を許可した。2022 年 5 月 16 日、Freeport は 2028 年 8 月 1 日までの 2 度目の延長申請を行い、FERC は 2022 年 10 月 13 日にこれを許可した。2022 年 6 月 8 日の事故の結果、プロジェクト進展が数年分遅延し、Freeport は稼働開始期限を実現することが困難となった、とした。

千代田化工建設株式会社は、2025 年 6 月 25 日、Chiyoda International Corporation (CIC) 社、米 McDermott, LLC 社は、米国テキサス州 Golden Pass LNG プロジェクトの顧客であ

る Golden Pass LNG Terminal 社と、本プロジェクト EPC 契約（設計・調達・建設工事請負契約）の改定第 2・3 系列に関して、今後のプロジェクト遂行において発生する費用の精算を含め、将来のコスト負担に関する GPX 社との責任分担につき基本合意に達したことを発表した。

Venture Global 社は、2025 年 6 月 3 日、自社 3 件目の LNG 輸出設備となる CP2 LNG について、動員、現場作業を開始したことを発表した。CP2 は先頃 FERC (連邦エネルギー規制委員会) から最終建設承認を受け、数週間前に DOE (米エネルギー省) から非 FTA 輸出承認を受けた。本発表によると、CP2 は米国産 LNG を、欧州、日本、その他世界の同盟国に供給する見込み。本発表によると、CP2 稼働により、Venture Global は米国産 LNG 筆頭輸出者となる見込み。

Worley 社は、2025 年 6 月 16 日、Venture Global 社との CP2 プロジェクトの償還型 EPC 契約の最新状況を報告した。限定推進通知の基で、Worley は EPC (エンジニアリング・調達・建設) 計画業務を提供している。Venture Global は 6 月、CP2 第 1 段階について、全面作業開始・現場作業開始とし、建設請負会社・Worley 人員とも現場に動員されている。CP2 の進展は、FERC (連邦エネルギー規制委員会) 承認待機で遅延されていた。承認は元々 2024 年 6 月になされたが、2025 年 5 月に再確認された。Worley は第 1 段階エンジニアリングを基本完了し、第 2 段階のエンジニアリング業務に着手している。FID (最終投資決定) 到達後速やかに、Worley は全面推進通知に基づくプロジェクト完成に向けた作業を継続する。Venture Global は 2027 年第 3 四半期 LNG 輸出開始を目標としている。

Venture Global Delta LNG 社は、2025 年 6 月 10 日付 FERC (連邦エネルギー規制委員会) 提出文書によると、Delta LNG プロジェクト申請撤回の意思を表した。Venture Global LNG は、ルイジアナ州ブラクミンズ郡における活動焦点を Plaquemines 拡張プロジェクトに注ぐことを決めた。同拡張プロジェクトは 2025 年 4 月 4 日、FERC プレファイリング（事前審査）手続きを認められ、Venture Global LNG はこれが Delta LNG プロジェクト相当の量の LNG を、それよりも早いスケジュールで生産できるとみなしている。

NextDecade 社は、2025 年 6 月 12 日、自社関係会社が Bechtel Energy 社との間で、Rio Grande LNG 設備第 4 系列・関連インフラストラクチャー建設への一括請負 EPC (エンジニアリング・調達・建設) 契約の価格更新を最終合意、Bechtel Energy 社との間で同第 5 系列・関連インフラストラクチャー建設への一括請負 EPC 契約を締結したことを発表した。第 4 系列 EPC 契約価格有効期間は 2025 年 9 月 15 日までである。第 5 系列 EPC 契約価格有効期間は 2025 年 9 月 15 日までである。NextDecade は第 4 系列への FID (最終投資決定) を同系列 EPC 契約有効期間末までに見込んでいる。第 5 系列について同系列 EPC 契約価格有効期間末までに FID を目標としている。

FERC (米連邦エネルギー規制委員会) の 2025 年 6 月 12 日付書簡によると、Driftwood LNG 社・Driftwood Pipeline 社は、Woodside Louisiana LNG・Driftwood Pipeline プロジェクトの完成・稼働開始準備完了期限を 2029 年 12 月 31 日まで延長する許可を受けた。これ

以前は 2024 年 2 月 15 日、FERC は当初許可の 2026 年 4 月 18 日から、2029 年 4 月 18 日まで延長することを承認していた。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 6 月 18 日、マレーシア PETRONAS LNG 社と、マレーシア向け 2028 年から 15 年間、年間 100 万トンの LNG 供給に関する非拘束 HOA (基本合意) を締結したことを発表した。この LNG は、米 Louisiana LNG プロジェクトを含め Woodside のグローバルポートフォリオより供給されることとなる。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 6 月 25 日、Louisiana LNG Infrastructure 社における 40%持分の Stonepeak への売却が完了したことを発表した。Stonepeak は Louisiana LNG 基礎開発に見込まれる資本的支出に加速ベースで 57 億米ドルを拠出、2025 年・2026 年ともプロジェクト資本的支出の 75%を負担する。Woodside が受領したクロージング時点での支払い 19 億米ドルは、2025 年 1 月 1 日の取引効力日以降発生している資本的支出中の Stonepeak 分の 75%を反映している、とのこと。

Energy Transfer 社は、2025 年 6 月 25 日、Energy Transfer LNG Export 社が Chevron U.S.A.社との間で、Lake Charles LNG 輸出設備からの追加 LNG 供給に関して SPA (売買契約) を締結したことを発表した。年間 100 万トンの 20 年契約により、Chevron による Energy Transfer LNG からの契約数量は、2024 年 12 月に締結した年間 200 万トンに加え、累計年間 300 万トンとなる。FOB (本船積地渡し) 条件で供給され、購入価格は固定液化手数料、ヘンリーハブ指標連動のガス供給要素で成り立つ。本 SPA 下の Energy Transfer LNG 側の義務は、FID (最終投資決定) およびその他前提条件充足が条件となる。最近の販売合意には、MidOcean Energy 向け年間 500 万トンの HOA (基本合意)、九州電力向け年間 100 万トンの SPA がある。

Commonwealth LNG は、2025 年 6 月 11 日、JERA と、LNG 年間 100 万トン・20 年間、Commonwealth のルイジアナ州キャメロン郡で開発中の設備から JERA が購入する SPA (売買契約) を締結したことを発表した。Commonwealth は、年間 400 万トンの長期引き取り合意を確保、2025 年 Q3 FID (最終投資決定) 目標、2029 年 LNG 生産開始見込みとしている。

マレーシア PETRONAS、Commonwealth LNG 社は、2025 年 6 月 17 日、PETRONAS LNG 社と Commonwealth LNG が LNG SPA (売買契約) を締結したことを発表した。PETRONAS は Commonwealth LNG から、そのルイジアナ州キャメロンで開発中の年間 950 万トンの設備から 20 年間、年間 100 万トンの LNG を購入することとなる。

Commonwealth LNG は、2025 年 6 月 18 日、FERC (米連邦エネルギー規制委員会) による、ルイジアナ州キャメロン郡近くのカルカシュー水路に位置する自社年間 950 万トン LNG 輸出プロジェクト承認の最終指令を受けたことを発表した。

Coastal Bend LNG は、2025 年 6 月 26 日、テキサスガルフに年間 2250 万トン LNG 液化・輸出設備の開発に着手したことを発表した。年間 450 万トン液化設備 5 系列、コージェネレーション、LNG 貯蔵タンク、海上輸送、バンカリング、ISO コンテナ向けの諸設備

開発を含む。2025 年中に FERC (連邦エネルギー規制委員会) 許可のプレファイル手続きを開始する見込みとしている。

米国の最上位垂直統合型天然ガス企業で生産・中流操業をアパラチア地域に焦点を置いている EQT 社は、2025 年 6 月 24 日、2024 年分の環境・ソーシャル・ガバナンス (ESG) 報告 "Promises Made, Promises Delivered" を発表した。同報告書は、EQT は世界の大型伝統的エネルギー企業として初めて、スコープ 1・2 温室効果ガス排出のネットゼロを実現した、としている。会社全体としての生産部門スコープ 1 メタン排出原単位は 0.0070% を達成、2025 目標 0.02% を大きく上回っているとしている。国際連合石油・ガスメタンパートナーシップ (OGMP) 2.0 のゴールドスタンダードを 3 年連続で獲得している。

米 RANGE RESOURCES 社 (RRC) は、2025 年 6 月 26 日、2024-2025 年度コーポレートサステナビリティレポートを発表した。これによると Range は、スコープ 1・2 GHG 排出の直接排出削減・認証済みカーボンオフセットを通じて、2025 年目標を前倒し、2024 年分でネットゼロを実現した。Range の GHG・メタン排出原単位は、2019 年以降で各々 43%、83% 削減され、当初目標を大きく上回った。ネットゼロ到達のためこれら諸策に加え、Range は高品質の認証済みカーボンクレジットに投資、信頼性あるレジストリを通じて相殺した。Range は全生産について MiQ 認証の "A" 等級を獲得している。

ノルウェー Solvang 社は、2025 年 6 月 2 日、BlackRock 傘下の Global Infrastructure Partners (GIP) が管理するファンドと、液化ガス海上輸送の世界有数の企業とすべく合弁事業を設立する契約を締結したことを発表した。Solvang Gas Carriers は当初、Solvang の LPG・アンモニア輸送用大型ガス船舶 (VLGCs) 13 隻を所有し、以降 LPG、アンモニア、エタン、二酸化炭素 (CO₂) 海上輸送での拡大を目指す。

Chevron 社は、2025 年 6 月 17 日、Chevron U.S.A. 社による 2 件の鉱区ポジションの買い取りを発表した。Energy & Minerals Group (EMG) 子会社が投資する TerraVolta Resources および East Texas Natural Resources (ETNR) 社からである。Chevron による米国内でのリチウムビジネス初参入となる。

Glenfarne Group 子会社で、アラスカ州ガスライン開発公社との合弁事業 Alaska LNG におけるマジョリティー所有者・筆頭開発推進者である Glenfarne Alaska LNG 社は、2025 年 6 月 3 日、第 1 次戦略的パートナー選定プロセスを完了、米国、日本、韓国、台湾、タイ、インド、欧州連合から 50 社以上が参加したことを発表した。

Glenfarne Alaska LNG 社は、2025 年 6 月 23 日、タイ PTT 社が Alaska LNG プロジェクトへの、年間 200 万トン・20 年間の調達を含めて戦略的参加に関して、協力協定を締結したことを発表した。Glenfarne Alaska LNG は「今回の合意とこれまでに公表した合意により、Alaska LNG は利用可能な第三者向け LNG 引き取り容量中 50% を投資適格な相手方向けとして確保している」と述べた。

LNG Canada およびその参加企業各社は、2025 年 6 月 30 日 (現地時間)、カナダ西岸 LNG Canada 設備より LNG 初カーゴが出港したことを発表した。ブリティッシュコロンビ

ア州キティマットの同設備は、2 処理系列総容量年間 1400 万トンより LNG を輸出する。

カナダ LNG Canada は、2025 年 6 月 20 日、コミッショニング・スタートアップ作業に伴う断続的・大規模なフレアリングが週末に続くことを通知した。

BMT は、2025 年 5 月 29 日、カナダのブリティッシュコロンビア州スクワミッシュの Woodfibre LNG 設備向けに統合型海洋監視システム (IMMS) を納入するべく、McDermott International 社により選定されたことを発表した。

カナダ Cedar LNG は、2025 年 6 月 6 日、韓国サムスン重工ヤードで Cedar LNG の FLNG (浮体 LNG 生産船舶) の組み立てが 5 月 26 日に開始されたことを発表した。同 FLNG は 2028 年完成見込みである。

カナダ Western LNG は、2025 年 6 月 5 日、ブリティッシュコロンビア州環境アセスメント局 (EAO) が、Prince Rupert Gas Transmission (PRGT) プロジェクトに関して、その環境アセスメント証書 (EAC) における実質建設開始期限 2024 年 11 月 25 日に先立って実質建設を開始していたとの判断を下したことを発表した。PRGT プロジェクトは、同州北東部からの天然ガスを、Nisga'a ネイション領域内の計画中の Ksi Lisims LNG 設備へと引き渡す天然ガスパイプラインとなる。

カナダ Ksi Lisims LNG は、2025 年 5 月 26 日、Kitselas ファーストネイションとの間で、影響管理・便益協定 (IMBA) を発表した。IMBA は同プロジェクトにとって初めてのもので、Kitselas 市民が同プロジェクトの長期経済的・コミュニティ的な便益をどのようにして享受するか、公式な枠組を確立することとなる。

メキシコ Mexico Pacific 社 (MXP) 社は、2025 年 6 月 18 日、DOE/FECM (米エネルギー省化石エネルギー・カーボンマネジメント局) に、MXP 輸出操業開始期限を 2032 年 12 月 14 日まで延長する修正申請を提出した。MXP は、2025 年 8 月 1 日までに承認することを要請している。DOE/FECM は、MXP が「本指令発行より 7 年以内 (2025 年 12 月 14 日まで) に計画中の液化設備より再輸出 (米国産ガスをメキシコから輸出する) 操業」を開始することを、非 FTA 諸国向け LNG 輸出承認の条件としていた。MXP によると自社コントロール外の状況・変化により、現状の期限に対応することができないとのこと。

[中東]

アブダビ ADNOC Gas 社および関係会社各社は、2025 年 6 月 10 日、Rich Gas Development (RGD) (ガス増強プロジェクト) 第 1 段階の FID (最終投資決定) 実施・50 億米ドル分の契約決定を発表した。ADNOC Gas の 4 件の設備: Asab, Buhasa, Habshan (陸上)、Das Island 液化設備 (洋上) における主要な処理設備拡張が契約に含まれる。この第 1 段階にて、EPCM 契約は 3 分して発注された。第 1 は Wood 社に Habshan 設備についてとなる。残り Das Island 液化設備、Asab・Buhasa 設備は、Petrofac 連合、Kent 社連合への発注となる。RGD 第 1 段階は、既存ガス資産の最適化、デボトルネッキングが主体となる。

ADNOC は、2025 年 6 月 26 日、Wanhua Chemical Group (万 化学集 股份有限公司)

と 2 本の MoUs を締結したことを明らかにした。1 本目は ADNOC Global Trading とのもので、LPG、ナフサ原料、準完成化学品の長期供給、貯蔵、トレーディング可能性を検討するもの。2 件目は ADNOC Global Trading、@AdnocLs によるもので、エタンのグローバルレベルでの調達、販売協力に関するものとなる。

日本のカナデビア株式会社は、2025 年 6 月 23 日、オマーン Oman LNG LLC (OLNG) と、オマーンでの将来的な商業メタネーションプラント建設を視野に入れた Concept Study およびパイロットプラント建設に関する PreFEED (Preliminary-Front End Engineering and Design) 契約を締結したことを発表した。

イスラエル NewMed Energy Limited Partnership は、2025 年 6 月 25 日、Leviathan ガス田の天然ガス生産がまもなく再開することを発表した。セキュリティ上の懸念で生産が停止していた。

[アフリカ]

Wärtsilä 社は、2025 年 6 月 3 日、Wärtsilä Gas Solutions が Höegh Evi 社向けに気化モジュール供給の契約を受注したことを発表した。このモジュールは、LNG 輸送船舶 Hoegh Gandria を FSRU (浮体貯蔵・気化設備) に改造するため設置される。改造後、Hoegh Gandria はエジプト Sumed 港湾に配置される。Wärtsilä の機器は 2026 年 Q2 引き渡し予定。Hoegh Gandria 改造は、2026 年 Q4 完了予定。

Golar LNG 社は、2025 年 6 月 23 日、FLNG Gimi が、モーリタニア・セネガル沖 Greater Tortue Ahmeyim (GTA) プロジェクト向けの 20 年間賃貸・操業契約に向けた商業稼働期日 (COD) に到達したことを発表した。

南アフリカ Renergen 社は、2025 年 6 月 18 日、自社ヘリウム・LNG プロジェクトの第 2 段階について、Chart Industries、Wilson Bayly Holmes - Ovcon 社、Aurex Constructors を選定したことを発表した。

[欧州・周辺地域]

欧州連合理事会、欧州議会は、2025 年 6 月 24 日、ガス貯蔵規制修正案に関して暫定合意に達した。冬季に先立ち貯蔵に十分なガスを持つ加盟諸国の既存の義務を 2 年間延長するものとなる。この暫定合意は、90%充填目標を定め、追加的柔軟性を導入する。ガス貯蔵 90%の既存の拘束力ある目標を維持するが、現在の 11 月 1 日期限でなく 10 月 1 日から 12 月 1 日のいずれかの時点で到達する柔軟性を織り込む。

Lloyd's Register (LR) は、2025 年 6 月 2 日、LR、Cool Company (CoolCo)、HD Hyundai Marine Solution (HD HMS) が CoolCo 所有の 162,000 m³ LNG 輸送船舶 Kool Glacier 再液化設備改造を完了したことを発表した。

英 Gasrec 社は、2025 年 6 月 3 日、2 件目の大規模オープンアクセス型のバイオメタン燃料充填設備建設を開始したことを発表した。このハムスホルの設備は、9 月に開業予定。

この開発は 2 段階で実施されるもので、初期は 1 日当たりトラック 300 台、最終的には 1,000 台のバイオ LNG 燃料供給を行うものとされる。

ノルウェー Equinor 社は、2025 年 6 月 26 日、英領北海での最大の独立系石油・ガス生産者となる自社と Shell 社との非法人型合併事業名として Adura を発表した。

ノルウェー Equinor、英国 Centrica は、2025 年 6 月 5 日、天然ガス年間 55 TWh (5 bcm)・2025 年 10 月 1 日から 10 年間、市場価格反映条件での長期ガス販売契約を発表した。

Vår Energi 社は、2025 年 6 月 27 日、Shell がオペレーションを担当する Ormen Lange ガス田について生産増強のため海底圧送を開始したことを発表した。Ormen Lange フェーズ III プロジェクトは、海底圧送ステーション 2 基で構成し、ガス田回収率を 75% から 85% に増加する。開発・操業計画 (PDO) では海底圧送で生産量を 30-50 bcm 増加できると試算している。Ormen Lange はノルウェー海で、陸上 Nyhamna 処理・輸送設備から 120 km の距離になる。ガスは欧州市場に Langeled・ノルウェーガス輸出システムをつうじて輸出される。Shell がオペレーター (17.8%)、Vår Energi (6.3%)、Petoro AS (36.5%)、Equinor Energy AS (25.3%)、Orlen Upstream Norway AS (14%) がパートナーである。

スペイン Enagás 社は、2025 年 6 月 26 日、Solvay・Enagás がカンタブリア地方ボランコに水素貯蔵ハブを開発する契約を締結したことを発表した。

イタリア OLT Offshore LNG Toscana 社は、2025 年 6 月 23 日、FSRU Toscana 基地を通じての新規小規模 LNG サービスのコミッショニングを完了したことを発表した。試運転としては、Axpo 運航の小規模 LNG 輸送船 "Avenir Aspiration" と、同基地間の LNG 双方向移送が含まれた。

イタリア A2A 社は、2025 年 6 月 30 日、bp と SPA (売買契約) を締結したことを発表した。A2A は 2027 年から 2044 年まで最大年間 10 カーゴを購入する。DES (持ち届け ex-ship)、FOB (積地本船渡し) で引き渡される。イタリア OLT Offshore LNG Toscana 基地、その他欧州基地で受け入れる。A2A は Toscana 基地オークションで複数年気化容量を確保している。引き渡しは 2027 年最終四半期開始、2042 年から数量減少する。契約期間末期には A2A は国内ガス消費減少を見込む。供給の一部は他市場に仕向け変更する可能性がある。

株式会社国際協力銀行 (JBIC) は、2025 年 6 月 27 日、株式会社商船三井 (MOL) が 100% 出資するキプロス共和国法人 WHITE EAGLE ENERGY LIMITED との間で、融資金額 252 百万米ドル (JBIC 分) を限度とする貸付契約を締結したことを発表した。株式会社三井住友銀行および Crédit Agricole Corporate and Investment Bank との協調融資により実施している。WHITE EAGLE が新造 FSRU (浮体式貯蔵・気化設備 1 隻を保有し、ポーランド共和国国営ガス輸送システム会社 Operator Gazociągów Przesyłowych GAZ-SYSTEM S.A. に対して備船サービスを提供するために必要な資金を融資するもの。

ロシア Gazprom は、2025 年 6 月 27 日、Ust-Luga のエタン含有量高いガス処理拠点のガス処理設備建設進捗が 57% を超えた、と述べた。

欧州委員会は、2025 年 6 月 10 日、ロシアに対する第 18 次制裁パッケージを提案した。初めて Nord Stream 1・2 パイプラインの取引禁止強化を提案している。

欧州委員会は、2025 年 6 月 17 日、2027 年末までに段階的かつ事実上、EU へのロシア産ガス・石油の輸入を停止する案を公表した。この提案には、2027 年末までにパイプラインガス・LNG をフェーズアウトする段階的ステップ、ロシア産石油輸入を完全停止する諸策が含まれる。

ドイツ SEFE Securing Energy for Europe 社は、2025 年 6 月 10 日、アゼルバイジャン SOCAR 社と、今後 10 年間の天然ガス購入契約を締結したことを発表した。SOCAR から SEFE への引き渡しは 2025 年に開始する。年間数量は段階的に 1.5 bcm へと増加することとなる。

[南米]

イタリア Eni 社、アルゼンチン YPF 社は、2025 年 6 月 6 日、Argentina LNG (ARGLNG) プロジェクトに関する契約を発表した。同契約は、総容量年間 1200 万トンの LNG について、ガス生産、処理、輸送、浮体設備を通じての液化まで含めたプロジェクトのフェーズに関して FID (最終投資決定) に至る必要なステップを規定している。Argentina LNG は、陸上 "Vaca Muerta" ガス田資源を開発する統合型ガス開発プロジェクトである。2030 年までに、段階的に LNG 最大年間 3000 万トン輸出する。

トリニダードトバゴのエネルギー業界団体が、2025 年 6 月 3 日、Shell Trinidad and Tobago 社が同国東部沖海洋地域 (ECMA) Aphrodite ガス田開発の FID (最終投資決定) を行ったことを伝えた。ECMA は、同国内での Shell の最大のガス生産源である Dolphin, Starfish, Bounty, Endeavour ガス田を含んでいる。今回のガス田は、Atlantic LNG 設備への補完供給源となる。Aphrodite ガス田開発は、引き続き規制承認が条件となるが、承認されれば 2027 年生産開始が見込まれる。ピーク生産は原油換算日量 18,400 バレル相当、ガス換算日量 1.07 億立方フィートと見込まれている。

bp Trinidad and Tobago (bpTT) 社は、2025 年 5 月 29 日、Mento ガス田開発から、最初の発見井からのガス生産開始、同プラットフォームへの残り 7 本の生産井掘削開始を発表した。Mento は、EOG Resources Trinidad (EOG) 社・bpTT 間の 50/50 合弁事業で、EOG がオペレーターである。bpTT・EOG は同様の合弁事業方式で Coconut ガス開発も進めている。稼働開始は 2027 年を見込んでいる。bpTT は、bp (70%)、Repsol (30%) が所有している。

[グローバル]

IGU (国際ガス連盟) は、2025 年 6 月 25 日、卸ガス価格調査 2025 年版を発行した。

IEA (国際エネルギー機関) は、2025 年 6 月 20 日、世界の LNG 供給チェーンからの温室効果ガス排出の包括的な新たな推計、これを削減する主要な機会を示す新たな報告書を

発表した。

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp